

～ Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ： *Supporting YMCA workers*

2025
9月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

2025 夏
熊本と富士山 YMCA

避暑地ならぬ被暑地が広がっている。8月初めアジア太平洋地域大会は予定どおり熊本市で開催し、世界各地の仲間が集まった。翻訳スマホが大いに活躍。9月初めには富士山麓でユースが環境課題を話し合った。今月のブリテンはエッセイ、YMCAのこの他にも8月の報告も詰め込んだ。

[写真メモ]アジア太平洋地域大会が熊本城で開かれた。会場は大いに盛り上がった。複数の観光コースのうち写真は通潤橋からの見事な放水。ユースは富士山YMCAのエコビレッジで環境課題と向き合い、参加ワイズメンともつながっていった。



今月の聖句

「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。」

旧約聖書 イザヤ書 45 章 22 節

10月「トンビがくるり」例会

日時：10月20日（月）10:00～12:00
会場：市民活動サポセン（パルコ9階）
プログラム：やはりジェンダーを語ろう

10月 夜談会

日時：10月13日（月）午後6時～8時
会場：サイゼリア（浦和駅東口）

▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場（覗いてください）

◆◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆◆

◆「き咲きてらす」の4年。ワイズ感謝！

浅羽俊一郎



退職後、組織などの後ろ盾なしに自力で地域活動を始めたいと祈り、周りに告げていた。だから両親宅が空き家になり、ワイズ仲間が後押しすると言ってくれた時、これぞ神様の励まし、と一歩踏み出した。近所の方と、所沢

メンの用意した昼食を共にし、了承を得た。そしてこの活動はまず2019年12月歌声サロンで開始。埼玉クラブの「歌声集会」常連が協力してくれた。オープンハウスには他クラブからも参加してくれた。半年間は周囲230軒にチラシを配ったが、泣きっ面にコロナ禍で、活動は休止。

それを幸いと、地域活動に参加すると不思議と支援者とつながり、2021年7月幹事会が発足し、9月「き咲きてらす」(以下「てらす」としてスタート。「歌声てらす」が再開。新たに「百歳体操」を開始。埼玉クラブも例会会場に使ってくれた。その後息子一家が2階に引っ越してきた。

今は「哲楽カフェ」「一日英語」「ミニ講座」の他活動によっては来館者と一緒に企画している。地域包括支援「スマイルハウス」と居場所作りサークル「ぐーちよきぱーてい」のサポートに加え、2年前から木崎自治会が回覧板掲載を許可してくれた。励まされる。

活動後、参加者が庭先でなごり惜しげに立ち話しているのを見られるのがとても嬉しい。先日は歌声の男性が参加者全員に自作の草鞋を配った。これまた感動した。

「てらす」は参加者が互いにつながり支え合う体験を大切にしたいと思っている。残された課題は若者が来なくなる仕掛けを見つけることだ。今はワイズでのつながりと支援に心から乾杯したい！◆

*写真は上からリフォーム前のオープンハウス、地域活動家たちの学習会、庭の梅を愛でる体操仲間たち。



◆第37回 YVLF に参加して

衣笠輝夫

期日：2025年9月5日(金)～7日(日)

場所：富士山 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ

講師：山崎宏氏（ホールアース自然学校代表理事）

ワイズメンズクラブが YMCA の青少年育成の方針に賛同し、ワイズメンズクラブが資金援助と主催者を受け、各 YMCA と協働で実施する魅力的な若者達に開かれた研修の場がユースボランティア・リーダーズフォーラム (YVLF) だ。2013年にこのフォーラムに参加して今回のフォーラムで連続12回の参加となった。この12年間で感じた事、気付かされた事、感動したことは数多く、全ては記載できないが、もっとも印象に残ったことをまとめてみる。第1に大学生のボランティアリーダーが生き活きとして参加していることだ。

若者に関して様々なことが言われるが、若者たちがポジティブな思考で参加し、まさにユースエンパ



イアメントを発揮していることだ。第2にテーマが従来の「今ユースボランティアリーダーに求められるもの」から社会的課題に対応できるよう「私たちにとっての みつかる・つながる・よくなっていく」に変更された。社会的課題への対応の具体的課題として、富士山に関わる環境問題に特化された基調講演を受けて、



極めて活発に議論し、単なる机上の問題とせず各現場での活動プログラムに反映されたことだ。フォーラムから現場を直視する視点が開けたことだ。

YVLF はこれからも大きく変わっていく。その変化は若者たちの主体的な関心事への関わりにかかっている。◆(当クラブメン・区ユース事業委員)

演を受けて、極めて活発に議論し、単なる机上の問題とせず各現場での活動プログラムに反映されたことだ。

◆ 2026年トロント世界 YMCA 大会への呼びかけ

大会実行委員長 ケリー・ライリー
(スコットランド YMCA 総主事)

コロナ禍以降、世界は急速に予測不可能な混乱に陥っているようです。AI の急速な進歩、政治の二極化、移民や難民への不寛容、ヨーロッパや中東での戦争や紛争の激化は、この混乱に拍車をかけています。



2026年世界大会(7月19日~25日カナダ・トロント市)の企画を主導できることを光栄に思います。長年の経験から、人々が集まって直に話し合うことの効果を確信しています。

トロント大会は、参加者が地球家族として、混乱にどう立ち向かうかを問う機会です。私たちはどんな姿で「若者・地域社会・YMCA との共生」を外に向けて表現するのかを真剣に考え、ビジョン 2030 への決意を再確認するための機会です。世界大会は私たちが直面する課題を全て扱えませんが、共に以下の問いを投げかける場を与えるはずです。

- * 私たちはこの時代の混乱にどう適応するのか？
- * 私たちは誠意・勇気・創造力の点で社会からどう見られているのか？
- * 私たちはビジョン 2030 を実戦する覚悟をどう体現しているのか？
- * 私たちは YMCA 運動の全身に向けて、どう準備しているのか？



私がこの大会に望むのは、安心して何か創造できるチャレンジングな場、そして参加者が「若者、地域社会、YMCA」にとってより良い未来を築く勇気を得る場となることです。なぜなら世界大会で大切なのは、会議中の出来ごとだけでなく、参加者がそこでどう変えられ、そこで共有した価値観やビジョンを帰国後、自国の地域社会でどう実践するか、その活動が求められる地域に出ている YMCA を築き上げることだからです。

- * 写真は 2023 年に結成直後の実行委員会。
- * 英文記事をグーグル翻訳/加筆しました。(浅羽)

◆ アジア太平洋地域大会 @ 熊本市

暑い承知で8月1日~3日までの3日間アジア太平洋地域などからも500名ほど熊本城ホールに参集。世代を超えた元気溢れる大会となった。(表紙写真)各地の課題を住民/若者と共に取り組みするメンが繋がり励まし合う大切な場だ。晚餐で韓国の夫妻がユースと平和を歌い、また全員で熊本のメンが作曲した歌と“YMCA(ヤングマン)”を歌った。特に“YMCA”は会場全体が盛り上がった。



特別公演は大野嘉宏メン(京都パレス)がラオスに YMCA を設立する苦労話。日曜礼拝では川上直哉牧師(石巻広域)が東日本大震災後の体験に触れて「国籍や宗教が違っても同じ現場に生きる人同士は力を合わせる仲間になれる」と熱く語った。

浅羽はズームで親しくなった大会実行委員長のルア氏(シンガポールα)とスタバで数時間ワイズ談義。大会はもっと議論する場が必要という点で一致。大会ホストの熊本のメンに感謝。(浅羽 記す)

- * クラブから上松、衣笠、浅羽の3メンが出席。

◆ 8月「夜談会」

8月11日(月)サイゼリアで開催。3名が集まり日頃なかなかじっくり話す機会のないワイズダム(ワイズの世界)について忌憚ない意見交換の場となりました。とのこと。

出席:大輪、上松、衣笠(世話役の大輪氏に感謝)

◆ 8月「納涼特別例会」



フェルネ(ジュネーブと接するフランスの町)在住の浅羽の提案で8月30日 ZOOM 例会。日本は真暑中だが、フェルネやジュネーブは暑い日もあるが、ほぼ 25 度前後で、エアコン無しで過ごせる。有機野菜・食品が普及している。日本は添加物天国か？

出席:浅羽・伊藤・上松・衣笠・水無瀬

- * 右写真はフェルネ町の通りから見たモンブラン山

◆ 9月「夜談会」

9月8日浦和駅東口サイゼリアで、常連に加えて澁谷弘祐牧師(久美愛教会・所沢メン)が初参加。自己紹介後、浅羽が配布したコメ価格に関する資料を見ながら意見交換。農家で育った参加者は当時の

思い出を語ってくれた。澁谷メンは教誨師の研修会で村木厚子氏（元厚労省事務次官）が語ったことを紹介。「相談する」ことの苦痛を学んだこと、市民サイドから見た役所の問題など。いつか教誨師としての体験を聞きたい。（浅羽 記）



出席：上松、宮原、上松 E、浅香、高岡、大輪、浅羽、澁谷、浅羽 M

◆ 9月「秋って？」例会



15 日が祝日なので、一周ズラして 22 日に開催。ゲストには元社長、画家もおり、近況報告から始まり、話題は農業、新渡

戸稲造、インド体験、ユース問題と広がり、閉会時間をオーバー。近くの女性が撮影に協力。感謝。

自由献金は 9,100 円。感謝。

[ゲスト] 金子恒夫、小林澄生、松沢幸一、森下千恵子、山本明比古、[メン] 浅羽、伊藤、上松、衣笠、櫻井、高岡、水無瀬（ズーム参加）（あいう順・敬称略）

YMCA の 小窓から



所沢市役所より委託を受けて、夏休み期間中の小学生一時預かり事業「サマープレイスとところざわ」を所沢センター、子育て子育てセンター、所沢市立こぼと児童館の3拠点を利用して実施した。対象は放課後児童クラブに申し込んだが、優先順位で保留となった児童（いわゆる

待機児童）で所沢センター近隣4校の小学校から1～5年生29名が参加した。朝8時になると続々と所沢センターに集まり、朝の時間は宿題や読書など静かに過ごし、午前中は埼玉 YMCA が指定管理者として運営をしている所沢市立こぼと児童館で野球や一輪車、虫取りや児童館行事の水遊びなどで楽しんだ。昼食後は子育て子育てセンターへ移動し、映画鑑賞、ボードゲーム、ドッジボールなど思い思

いに過ごした。学年は もちろん、学校を飛び越えた関わりの中で楽しむ様子が見られたことは嬉しく、「また来年もサマプレに来たい」との声も多く



あった。預かり期間中に語学サマースクールや短期水泳教室のプログラムに参加する児童も多く、YMCA のスケールメリットを活かしたプログラムとなった。（こぼと児童館館長 櫻井 徹）



仲間からの便り



◆ 今月の俳句 塀和光二郎メン（俳号 愚道）

案山子（かかし）にも地蔵菩薩の微笑みが

最近案山子もあまり見かけませんが、お地蔵様のような笑顔の案山子があったらいいなと思いませんか。



ありがたや友の差し入れコロナかな

先日コロナに罹りました。友人たちにそのことをお報せして一人閉じこもっていたら、食料を届けてくれました。無季俳句ですが、そのまま読みました。

我が家を捨てて悲しき金木屋

毎年我が家に咲いていた金木屋の香りは、事情により家を失った今でも金木屋の香りを嗅ぐと思い出します。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
8月夜談会 (08/11)	3	2	1
納涼例会 (08/30)	5	5	0
9月夜談会 (09/08)	9	3	6
月例会 (09/22)	12	7	5



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会（Y's Men International）は青少年教育団体 YMCA を支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたいという方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストでも皆と一緒に楽しく活動できます。

* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)